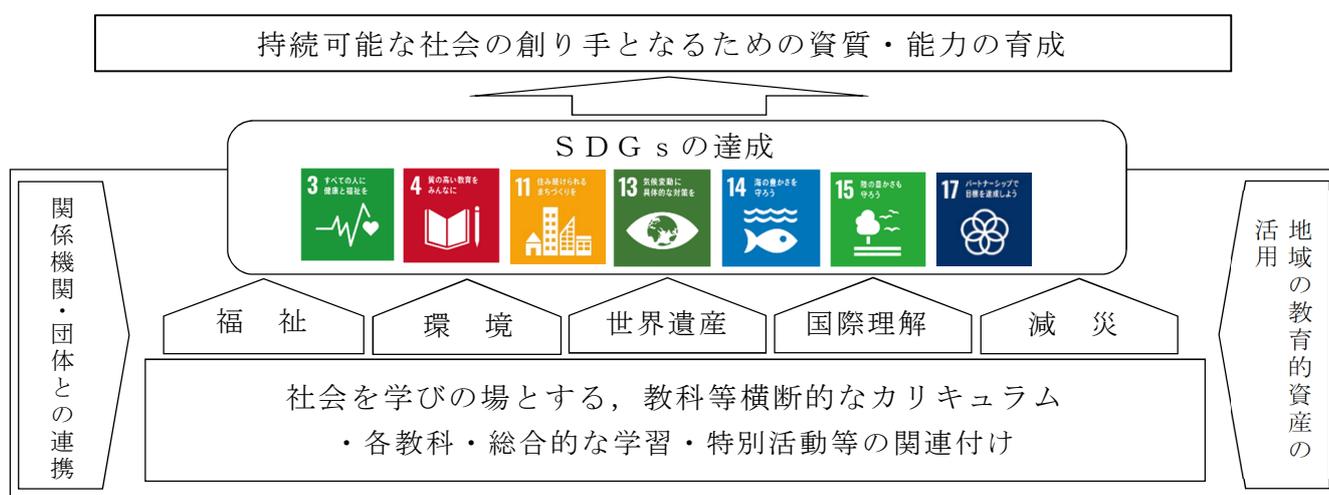


大牟田市立大正小学校

1 本校のESDの特徴

SDGsの達成を目指して、子ども達の活動が地域社会の課題の解決や世界の問題の解決につながるよう、「フラワータウンプロジェクト」「命を守る減災プロジェクト」「世界遺産のあるまち・おおむた発信プロジェクト」「集まれ！生き物 みんなのビオトープ」「STOP！地球温暖化 わたしたちにできることは」「書き損じハガキキャンペーン」などの活動を行うようにしている。日本ユネスコ協会連盟，国際マングローブ生態系協会，大牟田市防災危機管理室等，様々な専門家・関係機関と連携・協力しながら活動を充実・発展させている。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画



「福祉」「環境」「世界遺産」「国際理解」「減災」をテーマとした学習を行う教科等横断的なカリキュラムを編成し，地域の教育的資産を活用し，関係機関・団体と連携して実施している。

3 特徴的な活動事例の紹介

(1) 花と笑顔のまちづくり「フラワータウンプロジェクト」

子ども達は，まちに花と人の笑顔が広がることを目指して「フラワータウンプロジェクト」に取り組んでいる。

国道沿いのロータリーで地域の人と一緒に花を育てたり，学校で育てた花の苗を地域の人に贈って感謝の気持ちを表したりするなどの活動を行っている。令和2年度からは，松原公園の公園サポーターに登録し，松原中学校の子ども達と一緒に花を育てる活動もしている。

本年度は，キリバス共和国でのマングローブの植林活動に協力するため，学校で育てた苗を販売してその益金を国際マングローブ生態系協会に送った。「キリバスにマングローブの花をさかせよう」と児童会が全校によびかけたこの活動は，子ども達の活動が国際貢献につながるものとして保護者・地域の人々からも大きな支持を得た。フラワータウンプロジェクトを通して子ども



花を植える子ども達

達が地球環境について考えを深め、周りの人々と協働していくという大きな意味を持つ活動となった。



(2) 「命を守る減災プロジェクト」

子ども達が地域の防災・減災について考え行動するための学習をしている。

1・2年生では、「ぼうさいカルタをつくろう」の学習を行い、カルタづくりを通して、自然災害の種類や災害から身を守るための行動についての知識を学んだ。

3年生では、「非常用持出袋の中身を考えよう」の学習を行い、災害発生後の避難所生活を想定して家庭から持ち出す袋の中身について、持ち出せる袋の大きさ・重さを踏まえた上で中に入れるそれぞれの物の必要性を吟味する活動を行った。

4年生では、「通学路で大雨にあったら」の学習を行い、通学路の路面の高低差を調べ、雨水の流れる方向から危険な場所、避難する方向等を考え、減災マップに表す活動を行った。

各学年で、災害の発生を想定し、命を守る行動の仕方を身に付けるための実践的な学習を行っている。



(3) 「集まれ！生き物 みんなのビオトープ」「荒尾干潟の生き物を調べよう」

4年生は、学校のビオトープの生き物の変化を調べる活動を通して、生き物と環境とのかかわりについて考える学習を行った。ビオトープの池に生き物を放流して半年が過ぎ、生き物の種類や数がどう変化したかを池の中に入って調査した。

5年生は、荒尾干潟と荒尾干潟水鳥・湿地センターを訪れ、干潟の生き物の種類、生き物をはぐくむ干潟の自然環境、生き物どうしの関係を調べ、生態系の概念や環境保全の考え方を学んだ。



干潟の生き物に触れ合う子ども達

水辺のない校区に生活する子ども達にとって、池や海の生態系に触れ、生態系を育む環境について考える貴重な体験学習になった。

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・フラワータウンプロジェクトの活動やビオトープや荒尾干潟での体験を通して、子ども達が自然や生き物への関心を高め、人間や生き物と環境とのかかわりについて考えを深め、行動への意欲をもった。大牟田市自然環境調査専門委員、国際マングローブ生態系協会等の専門家の協力を得て学習活動が充実した。
- ・防災・減災教育のカリキュラムと教材が引き継がれ、新しく赴任した教師も戸惑うことなく指導することができた。第1学年から第4学年までの系統的なカリキュラムにより、子ども達が段階に応じた防災・減災学習ができています。

○課題

- ・松原校区におけるESDの目標を学校と地域、教師と子どもが共有し、3校区の連携を深めながら協働したり、それぞれの取組のよさを学び合ったりするようにしていくことが課題である。